

「古岩久保」参道復活を

東山地域里山活性化プロジェクトが作業着手

深山幽谷の霊場を名所に

諏訪市四賀地区普門寺の有志でつくる東山地域里山活性化プロジェクト（伊藤為幸リダー）は、地区東側の山腹にある、古墳時代中頃の洞穴遺跡でかつて観音堂があった「古岩久保」への参道をおよそ100年ぶりに復活させ、一帯に遊歩道を新たに巡らせる取り組みに着手した。今秋完工した採石場跡地の公園化に続く新たな作業の舞台は

「深山幽谷の霊場」。今月1日には、急傾斜の足元を探りながら遊歩道のルートを決めて網を張る作業に汗した。霧ヶ峰へ通じる県道の途中を沢沿いに登りつめた山頂近く（標高約1050m）にあり、火山性の凝灰岩が集塊した断崖の洞穴の中にはこらや多様な石像仏がまつられている。上方の石窟からはかつての調査で鉄のやじりや人骨、土

器の破片、石やガラスの玉多数が出土しており、四賀村誌には「古墳時代中期の特別な人物の風葬墳墓であろう」との記述もある。また、開創時期は不明だが江戸時代までは観世音菩薩をまつるお堂があり、修験者の修業場でもあったと伝わる。地元民にとっては「かつては子どもの遊び場だったというが、区民の足が遠のいた今は

まさに「秘境」。採石場の幕岩公園とは地質も趣きも全然違い、幽玄の地（伊藤さん）だ。

今回の作業では消えかかっていた県道からの参道（約300m）を幅2mに広げて整地。断崖を隠す雑木を切り払ったところ、厳かな洞穴風景が見晴らせるようになった。

を新たに作る。とはいえ現地は、落ち葉に足を取られれば数十メートル転がり落ちる急傾斜地。メンバーは時に四つん這いで斜面を登り降りしながら、作業を進めている。

同プロジェクトの名所整備は2年目で2カ所目。メンバー

「私たちは「作業のたびに死にそうな思いで山を登る」と明かしつつ、「難所の作業だが、また新たな名所を作り、東山一帯を神秘的なパワースポットとして人にぎわうエリアにしたい」（伊藤さん）と意気込んでいる。（日比野真由美）



急傾斜の山肌で遊歩道をつくるメンバーたち

計画では山頂、山腹を北へ約800m縦走し、すでに整備を終えた採石場跡地「幕岩公園」へつながる遊歩道